

図書館だより

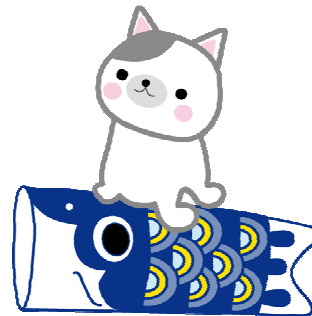


No. 1

平成 24 年 4 月 27 日発行

1学期が始まり、1ヶ月が経とうとします。ようやくみなさん新しい環境での生活にも慣れてきた頃でしょうか。これから三連休、5月のゴールデンウィーク、と大型連休が続きますが、みなさんはどんな予定を立てていますか。のんびりと家で過ごす人、外へ出かけて元気に遊ぶ人、など、それぞれ自分に合った過ごし方で、この1ヶ月の間に溜まった疲れをとりましょう。

さて、今月は2012年本屋大賞が発表されましたね。ノミネートされた10冊はどれも読み応えがあり、どの本が大賞に選ばれるのかと予想を楽しんでいましたが、今回は三浦しをんさんの『舟を編む』が見事、2012年本屋大賞に選ばれました。去年、本屋大賞に選ばれた「謎解きはディナーのあとで」(東川篤哉 || 著 小学館)同様に、「舟を編む」もこれから図書館で人気の1冊になるのではないかなと思います。「読んでみたい」と思っている人は、早めの予約をお勧めします。



緑に癒されに出かけよう*

291.3-ヤ 『山女子、今日も山に登る』 山女子 || 著 BABジャパン

最近「山ガール」なんて言葉が生まれ、登山を楽しむ女子が増えています。みなさんの中にも「山ガール」が潜んでいるでしょうか。登山は健康にもいいし、自然の中で心をリフレッシュするのも最適です。

興味はあるけど、ちゃんと登りきれぬか不安という人におすすめなのが、この本です。この本で紹介されているのは都内近郊にある標高の低い山ばかりなので、気持ちにも体力にも余裕を持ちながら登山を楽しむことができます。それぞれの山に異なった魅力が詰まっているので、1つ登ってみて山の楽しさを感じることができたら、他の山にもチャレンジしてみましょ。

辞書に込められた想い*

913.6-ミ 『舟を編む』 三浦しをん || 著 光文社

誰もが一度は手に触れたことのある“辞書”分厚くて、重くて、電子辞書のほうがずっと使いやすい、と思っている人も多いのではないのでしょうか。そんな人にこそ、この本をぜひ読んでほしいと思います。

辞書作りの現場にその一員として加わることになった“馬締(まじめ)さん”一度聞いたら忘れられない名前と名前に負けないくらい変わった性格の持ち主の彼は、変人扱いされてきたが、辞書作りで自分でも思いがけない才能を発揮することになる。辞書づくりに人生をかけた人、言葉の持つ意味に真剣に向き合う人、辞書に最適な紙を求め試行錯誤する人、様々な人の熱い想いが1冊の辞書に込められているのが感じられ、読んでいる側までもが熱い気持ちになります。読んだ後は、紙の辞書に触れたくなるはず！

図書館の開館と貸出について

1年生のみなさんも図書館の利用に慣れてきたでしょうか。3年間を通し、図書館をフル活用してくださいね。ここで、2、3年生も含めた全校生徒のみなさんに図書館の開館と貸出についておさらいをしておうと思います。

開館日:月曜～土曜 ※日・祝日は休館です。

開館時間: 通常 8:50～18:45 (※月曜は10:15より開館)

考査1週間前 8:50～17:30

考査中 8:50～17:00

土曜日 8:50～17:00

※学校行事及び長期休暇中の開館に関しては、その都度、お知らせをします。

貸出冊数:3冊

貸出期間:新着本*1週間 その他*2週間 (雑誌も最新号以外は貸出をしています)

おはなし会に参加しませんか♪

今年度もチームおはなし会は盛りだくさん&高校生向けの大人な内容でおはなし会を開催していきます！！

早速、第1回目のおはなし会が☆を**5月8日(火)16:10**より**記念館生徒ホール**で開催します。プログラムは後程、各クラスに掲示します。たくさんの方が聞きに来てくれるのを、一同楽しみに待っています。気軽に足を運んで、おはなし会の様子を見てみていってください。また、当日見に来られない人も図書館には過去のおはなし会のDVDを置いてありますので、いつでも観にきてください。様々な演目を取り揃えてあります。

新たなメンバーが大勢加わったチームおはなし会ですが、引き続き、有志としておはなし会に参加してくれる人も募集しています。声で表現するのが好きな人、人前に立つ度胸をつけたい人、実はおはなし会に興味を持っている人、大歓迎です。ぜひ、チームおはなし会の一員として、楽しく活動をしましょう。

参加を希望する人は、図書館カウンターの司書に「おはなし会に参加したい！」と伝えに来てください。





1冊の本から繋げよう



図書館では毎日みなさんが様々な本と出会っています。せっかく出会えた1冊の本だから、そこから次の1冊に出会うきっかけも掴んでもらえたら嬉しいなあと思っています。そんな風に繋がりがたたくさんの本と出会っていけば、今よりもっと読書や興味の幅が広がり、みなさんの世界も広がっていくことでしょう。今年度の「図書館だより」では、1冊の本から次に繋がる本をキーワードと共に紹介していきます。「こうやって繋がっていくんだ」という発見をお楽しみください。

今月の1冊は…

913.6-シ 『峠うどん物語』 重松清 著 講談社

峠のてっぺんにぽつんと建ったうどん屋。そこで働くのは淑子のおじいちゃんとおばあちゃん。頑固者で無口なおじいちゃんの作るおいしいうどんと、世話好きなおばあちゃんの絶妙な接客で、お店『長寿庵』はなかなかの繁盛ぶりを見せていた。

が、目の前に市営斎場が出来てしまってから、客層がガラリと変わってしまった。悲しい別れの後に、うどんを食べに来る人たちが、『長寿庵』から『峠うどん』に変わった店の名前。だけど、どんな人がどんな想いでやってきても、おじいちゃんのうどんは変わらないおいしさで、食べる人の心をあたため続ける。何も語らなくても、うどんを食べれば伝わる心がある。孫娘の淑子は店の手伝いをしながら、そうやって店を訪れる人たちが抱える様々な想いに触れ、人生で大切なことを身をもって学びながら、一步ずつ成長していく。

悲しい涙ではなく、あたたかな涙が流れる優しい物語です。



『峠うどん物語』 キーワード1

“うどん” ～うどんが無性に食べたくなったあなたに～

596-オ 『誰でもできる手打ちうどん』 大久保 裕弘 著 農山漁村協会

うどんを打つ！！なんて、「そんな気軽にできることじゃないよ」と思ってしまいますが、実は誰にでも出来るうどんの打ち方があるのです。その手法を紹介しているのがこの本。踏んだり、こねたり、手間と体力のかかる作業だとばかり思っていたら、その手間なく、しかも薄力粉でコシのあるうどんができてしまうのは驚きです。かかる時間も30分と短く、これなら一度は職人気分でうどん打ちに挑戦してみたいなという気持ちが湧いてきます。

お手製の手打ちうどんでおいしいごはんの時間を送ってみてください。



『峠うどん物語』 キーワード2

“人と人との繋がり” ～たくさんの深い絆に涙したあなたに～

913.6-セ 『おしまいのデート』 瀬尾 まいこ 著 集英社

デートがテーマになった短編集。おじいちゃんとデート、男同士のデート、恩師とのデート、どれもちょっと変わったデートだけど、どのデートもとっても味わい深い。胸にジンとくる感じが、読んでいて心地よく、こんなデートもいいなあと思えます。

中でも1番のおすすめは「ランクアップ丼」毎月24日になると、玉子丼を食べに出かけるふたり。上じいと呼ばれる先生と問題児の教え子、ふたりのこのデートは卒業した後も続いていた。ふたり揃って玉子丼を食べる、ただそれだけの他愛のないひととき。だけど、欠かすことのできない何か大切なひととき。ラストは涙なくしては読めません。

さあ、読み終わった後、あなたは誰とデートをしたくなるでしょうか。



そして、

重松清さんの本を「もっと読みたい！！」と思った人には

913.6-シ 『きみの友だち』 重松 清 著 新潮社

ふたりの女の子と、その周囲で起こる思春期の様々な人間模様。ここには“友だち”のいい部分だけでなく、痛みを感じるような部分までもが鋭く描かれています。読んでいて陽気になれるような感じではないのに、読み出すと止まらなくなるのは、誰もがどこかで感じたことのある想いが描かれているから。

どうしていいのかわからないくらい悲しい思いをして悩むのは友だちのこと。だけど、その友だちの存在にたくさん、たくさん助けられ、そして、笑顔をもたらしている。悲しさと優しさ、その両方を胸いっぱい感じながら、読んでください。きっと、本を閉じた後、自分の大切な友だちの顔が浮かんでくることでしょう。